

登壇者プロフィール

草加 叔也

岡山県倉敷市生まれ。劇場・ホールなど演出空間を中心に基本構想から施設計画、そして管理運営計画（指定管理者選定支援業務を含む）など劇場コンサルタントとして「銀座セゾン劇場」「富山市芸術文化ホール」「新潟市民芸術文化会館」「長久手町文化の家」「可児市文化創造センター」「国立劇場おきなわ」「兵庫県立芸術文化センター」「ミューザ川崎シンフォニーホール」などの各地の劇場施設づくりに関わるとともに、ピーター・ブルック、レフ・ドージン、ユーリー・リビュー・モフ、ピナ・バウシュ、アリアヌ・ムニューシュキンなどによる演出作品の日本公演で、技術監督として直接上演活動に携わる。1989年には芸術家在外研修員として渡英。

現在、劇場コンサルタント／空間創造研究所代表として活動。その他、(公社)全国公立文化施設協会アドバイザーなどを務める。

大和 滋

芸団協に 1975 年入社。伝統芸能を中心とする芸団協主催公演の制作担当、1985 年から実演芸術に関する基本的な諸問題、文化政策の調査研究、芸術文化振興基金創設の提案に携わる。1997 年から事務局長として文化芸術振興基本法の提言、2005 年から芸能文化振興部長として芸能花伝舎の設置、運営を担当。2010 年から参与。文化芸術推進フォーラムによる劇場法の提言、「五輪の年には文化省」運動、「文化芸術基本法」改正提言にも携わる。

現在、芸団協参与、文化芸術推進フォーラム事務局長、公益財団法人神奈川芸術文化財団参与、公益財団法人新宿区文化芸術振興会議委員、公益財団法人新宿区未来創造財団評議員、公益社団法人能楽協会監事も勤める。

上野 晶子

1979 年文京区採用。2010 年より公益財団法人文京アカデミーにおいて、文京シビックホール館長兼アカデミー文京所長として、シビックホール関連の文化芸術振興事業及び文京区内の生涯学習推進事業に携わっている。

梶 奈生子

公益財団法人日本オペラ振興会職員として藤原歌劇団主催オペラ公演及び新国立劇場との共催オペラ公演の制作を担当。その後、新国立劇場技術部調整課における制作業務や、(株)ラヴオーチェのチーフ・ディレクターとして主催オペラ公演やコンサートの企画・制作及びコンテンツ制作・販売、(財)江副育成会（現：公益財団法人江副記念財団）の新進アーティスト支援事業に携わる。東京文化会館 50 周年記念オペラ公演を機に同館事業企画課長に着任。

平岡 正之

1981年武蔵野市役所採用。2014年4月より公益財団法人武蔵野文化事業団に派遣され、同事業団事務局長として、武蔵野市民文化会館をはじめとする武蔵野市の文化施設8館の管理運営と公演等の事業を統括。2014年6月には同事業団常務理事に就任。この間、武蔵野市民文化会館の大規模改修への対応を行った。

山崎 利行

1985年東京都庁採用。2013年より東京都歴史文化財団総務課長として都立文化施設の管理運営、2015年には生活文化局多文化共生推進担当課長として在住外国人との共生社会実現やおもてなしボランティア育成事業を行い、2017年4月から文化振興部事業計画担当課長としてホール・劇場等問題への対応などを行っている。

村田 陽次

1999年東京都庁採用。2004年より生活文化局で都立のホール・劇場や美術館・博物館の管理運営に関する業務（指定管理者選定を含む）を主に担当し、2016年4月から文化振興部事業計画担当としてホール・劇場等問題への対応などを行っている。